

2025 年 5 月 20 日
社会福祉法人共生会 S H O W A
理事長 坂東真理子

2025 年度母子生活支援施設への助成事業のご案内

社会福祉法人共生会 S H O W A（以下、共生会 S H O W A）は、2024 年度に引き続き、母子生活支援施設を対象に、女性や子どもへのエンパワメントに資する事業への助成を行います。

共生会 S H O W A は、昭和女子大学が地域への社会貢献事業の一貫として設立した社会福祉法人で、認可保育園、学童保育、ひろば事業、子どもの発達相談室、男女共同参画センターなど 7 施設を運営していますが、2023 年度に川崎市在住の故八嶋佳子氏からの遺贈を受け、法人内に八嶋佳子基金を設立し、母子生活支援施設への助成事業などを行っております。

母子生活支援施設への助成事業は、経済的な理由等で体験の機会が乏しくなりがちな母親や子どもたちに、体験を豊かにする機会を提供することによって、元気ややる気が出て、未来への可能性を拓くことにつながるよう資金を提供するものです。

2024 年度は東京都と川崎市にある 36 の母子生活支援施設を対象に募集を行ったところ、初年度にもかかわらず、12 施設からの応募があり、八嶋佳子基金検討会委員による審査を経て、11 施設への助成を行いました。

2024 年度の実施事業としては、子ども同士が話し合っコンサートやミュージカルへ行く、親子で相談して旅行に行く、新幹線やロマンスカーに乗る、レストランの食べ放題へ行くなど、就活用のメイクレッスンを受ける、親子クッキング用の電子レンジを購入する等々です。

母子生活支援施設の職員のなかには、助成事業への応募は初めてという方も少なくなく、申請書の記述や計画立案、当日のアテンドなど、苦戦した様子もうかがえましたが、終わってみれば、すべての施設で計画通りの成果をあげて、期日通りに報告書が提出されました。報告書には、事業に参加した母親や子どもたちの笑顔の写真があふれ、感想文もうれしいものでした。スタッフの方たちの健闘ぶりも充実感も伝わってきました。福祉新聞に取り上げられた記事を添付します。

共生会 S H O W A では、今年度も母子生活支援施設を対象に助成事業を募集します。別紙募集要項をご覧の上、申請書にてご応募いただきますよう、ご案内申し上げます。

共生会SHOWA

母子支援施設に助成金 入所者の体験格差なくす



劇団四季のミュージカルを鑑賞した
子どもたち

東京都世田谷区の昭和女子大が地域貢献の一貫として設立した社会福祉法人共生会SHOWA（坂東眞理子理事長）は、遺贈金をもとに、都内と川崎市内の母子生活支援施設設計11カ所に計204万円を助成した。

経済的理由などにより体験の機会が少ない母子家庭を支援するのが目的で、各施設の職

員と母子が相談して体験活動に活用してもらった。

法人は同大の資源を生かして保育所や学童保育、発達相談室（受託）などを運営している。遺贈金は川崎市在住の故八嶋圭子さんから「女性と子どものために活用してほしい」と受けた。今年度は母子生活支援施設に助成することにし、都内と川崎市内の全32カ所に広報し事業を募った。

母子生活支援施設は困窮する母子を保護して自立を支援する。DVから逃れてきた母子もいるため秘匿性が求められるが、その反面施設の存在や機能が認知されにくく、児童養護施設などと比べて寄付などが届きにくい。例えば、お年玉をもらった経験のない子どもがいるなど、周囲と違うことで引け目を感じ、自己肯定感を育みにくい。助成はこうした実態を踏まえ、体験格差をなくし、新たな体験を未来につなげてもらうことにした。

体験活動は母子で温泉旅行に行く、新幹線に乗る、デイズニラードに行くなどさまざま。ある施設では10月末に小中学生8人が劇団四季のミュージカルを鑑賞した。引率した職員の坂本一人さんは「話し合いは子どもが意見表明する機会になった。ミュージカルの迫力と感動の空気を味わい、会場まで特急電車に乗ったことも子どもたちの良い経験になった」と話す。

法人では遺贈金を活用した事業を10年程度計画しており、女性と子どもの未来の可能性を支援していく。